



国立病院機構の
シンボルマーク



独立行政法人国立病院機構

松江医療センター
呼吸器病センター
 〒690-8556
 松江市上乃木5丁目8-31
 TEL (0852) 21-6131 FAX (0852) 27-1019
 URL <http://www.mmedc.jp/>
 発行責任者
 院長 中島 健二
 編集者
 事務部長 松本 良一



新人リフレッシュ研修（島根県立青少年の家「サン・レイク」於）

今年も4月に入職した新採用者が、3か月を迎えた6月に心身のリフレッシュと仲間づくりを目的に職場を離れ、宿泊研修を行いました。

皆揃って、当院の力として、着実に歩んで行ってほしい。



Dr. コラム「趣味は音楽鑑賞」 2
 「摂食・嚥下障害」に対応した
 食事を導入しました。 2
 リフレッシュ研修 3～4
 教育研修部より
 空気と水と温度:その1 (空気の話) 5
 異動者紹介 5
 永年勤続表彰 6
 肺疾患懇話会 7

サマーコンサート2017 7
 緩和ケア認定看護師になれました 8
 緩和医療学会にて発表してきました 8
 高校生一日看護体験 9
 中学生地域医療現場体験 9
 開業医紹介コーナー 10
 地域医療連携室だより 11
 外来診療表 12

基本理念 私たちは、真心と思いやりをもって良質な医療を提供します。



Dr. コラム

「趣味は音楽鑑賞」

最近音楽CDをその都度CDプレイヤーで再生するのではなく、音楽をダウンロードしプレイヤーで鑑賞している。

曲を曲名順に再生させることが可能であり、同じ曲を違う歌手・演奏で連続して聞くことができるようになった。同じ曲が歌手によって異なる印象になるのがおもしろい。

いろいろな音楽を聴きなおしてみるといちばん懐かしいのが、子供の頃夢中になったアニメソングである。自分の親の世代が、戦前の学校唱歌や軍歌を歌って懐かしそうにしているのを時代錯誤なことだと思っていた。今思うと彼らの子供時代に聞いていた歌・音楽はこれしかなく、自分がアニメソングを聴いて懐かしいと思うことと、何ら変わりのないことである。人の行動は与えられた環境・情報によって変化していく。

ボランティアさんが病室の患者さんの前で演奏しておられる。電子カルテの記録をしながら聞いているが、音楽は生演奏が一番と思える。やはり人が一番ということか。



神経内科医長
下山 良二

「摂食・嚥下障害」に対応した食事を導入しました。

栄養管理室 管理栄養士 今津 健一

食べ物や飲物が思うように食べられない、飲み込めないという状態になったり、肺の方へ流れ込む（誤嚥する）ようになる状態を「摂食・嚥下障害」といいます。松江医療センターでは、そのような障害の程度に応じ、これまで4段階の嚥下調整食（当院では嚥下食という名称）を導入してきました。嚥下食は、嚥下難易度の低い食事から、段階的に難易度の高い一般食（いわゆる普通の食事）へと移行していきます。



試食と評価の様子

今回新しく導入した嚥下食は、嚥下食の中では難易度が高く、一般食へ移行する前段階の食事です。一般食に近い見た目でありながら歯茎でも潰せる程度の硬さに調整し、誤嚥のリスク低減に配慮しています。導入に向けては、医師・言語聴覚士・摂食嚥下障害看護認定看護師・調理師・栄養士が連携して試作と試食を繰り返しました。肉や魚の見た目を変えずに軟らかくすることなど、苦労はありましたが、これにより嚥下食と一般食の難易度の開きを小さくし、スムーズに



鮭の甘酢あんかけ 大豆五目煮
野菜の軟らか煮

移行出来る体制を整えることができました。食事の名称は、嚥下食L4（レベル4）としました。今後は献立のバリエーションを増やしていく事が主な課題です。

嚥下食L4は仕込みや調理が他の食事よりも多く必要です。当院では必ず、言語聴覚士または摂食嚥下障害看護認定看護師いずれかの評価を受けた上で提供する事としています。

新人看護師リフレッシュ研修に行ってきました!!

看護部教育委員 4階東病棟副看護師長 廣戸 香織



6月23日(金)～24日(土)1泊2日で、新人看護師リフレッシュ研修を行いました。

今年から研修場所を変更し、島根県立青少年の家サンレイクにお世話になりました。サンレイクは丘の上にあり、宍道湖を見下ろす景色がとてもきれいな場所でした。また、天気にも恵まれ野外活動も予定通り行うことができました。

6月は、新人看護師の皆さんが入職して3ヶ月で、3ヶ月間は、嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、辛かったことなど様々な思いを持つ時期です。また、そろそろ夜勤を始める時期でもあり不安や悩みを抱える時期です。そこで、今回研修を通し、リフレッシュできることと、お互いに悩みや情報を共有し今後の自己の課題や具体的な目標が見つけれられるよう、また今後一緒にがんばっていける仲間作りを目的に企画しました。

研修のはじめは、新人看護師の皆さんは緊張のためか元気がない返事をしていましたが、時間が経つにつれ徐々にうちとけたのか声も出て、最後には「はい!!」と元気な声が上がっていました。

今回の研修を通して新人看護師の皆さんは、普段病棟が違うため話をする事がなかった同期ともゆっくり話をする事ができたと思います。そこで悩みを話したり、思いを共有することで悩んでいるのは自分だけじゃないんだ、頑張ろうと思う事ができたのではないかと思います。また、今回の研修に担当者として参加し、新人看護師の皆さんを見てみると、グループ活動を通じてお互いのことを考え、自分はどう動いたらよいか考える事ができていたと感じました。そして、グループ間、またはグループ同士で協力することの大切さを学ぶ事ができていました。それが今後の仕事にもつながることだということを理解できたのではないかと思います。今回の学びを活かし行動してほしいと思いました。また、グループワークを通し自己を振り返る事ができ、今後の課題も明確になりました。

新人看護師の皆さんは、職員の皆さんに支えていただきながら、日々いろいろなことを学び、葛藤しながら頑張っています。

今後とも、新人看護師20名をよろしくお祈りします!!



【一畑薬師 いよいよ昇段1270段】



【病院でのグループワーク】



【共同作業による"ぐるぐるパン"作成 棒にパン生地を巻いて炭火焼!】



【一畑薬師までの途中階段での励まし… "うれしい つらい 妙薬なり"】

新人看護師リフレッシュ研修に参加して



1階病棟 新人看護師 **平田 大輝**

6月23日～24日に、新人看護師リフレッシュ研修があり、新人看護師20名が参加しました。

1日目、最初は院内でグループワークを行いました。入職してからの約3か月を振り返り、嬉しかったことや悩みなどを共有することで、これまでの自己の成長や今後の課題・目標を発見することができました。次は一畑薬師寺へ。1,300段余りの階段をのぼり、本堂へ到着。そして、人生初の座禅を行いました。座禅中は呼吸のみに集中するということでしたが、周りの音が気になるなど、1つのことに集中することの難しさを感じました。この日の最後はサンレイクへ移動し、カプラやバーベキューを行いました。カプラでは、「座禅」をテーマに、それぞれのグループが個性的なものを作ることができました。バーベキューでは、先輩の方々も交えゲームを行うなど楽しいバーベキューとなりました。

2日目は、朝からパン作りを行いました。途中で材料が足りなくなるハプニングもありましたが、グループのリーダーを中心においしいパンをつくることができました。

今回の研修を通して、自己の成長・今後の課題など発見することができ、新人同士の繋がりを深めることができました。これから夜勤も始まり、悩むことも増えるとは思いますが、先輩方や同期に支えていただきながら頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお祈りします！

【研修後アンケートより】

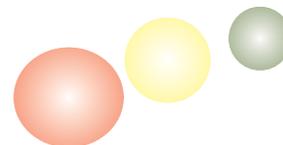
- ・バーベキューやパン作り、スポーツを通してリフレッシュでき、楽しく気分転換になりました。
- ・自分と同じように悩んだりしているのだと知れて良かったです。周りの同期と話して頑張ろうと思えました。
- ・夜勤に入る前に、目標や課題を明らかにすることができて良かったです。
- ・少しずつできることが増えてきたり、夜勤が始まる前に同期のみんなと一緒に話し合ったり、活動することができて、リフレッシュできました。
- ・意見交換会では悩みを聞いてもらうだけでなく、改善策を一緒に考えてもらったので、今後活かしていきたいと思えます。
- ・自分から声を出すこと、役割を見つけて行動していくことが必要だと思えました。
- ・2日間を通して、今まで以上に同期と仲良くなれました。普段話しをしない人たちとも関われたので良かったです。



★★★★ 新人さんの明日からの自分への一言 ★★★★★

- ☆1日1日コツコツと！目標決めてがんばる！
- ☆振り返りを忘れず、目標に向かって進んでいこー！
- ☆がんばれ！！自分だけじゃない。
- ☆辛いのは1人だけじゃないし、何かあったら話を聞いてくれたりする周りの人もいるから、あまり考えすぎずにがんばれ。

明日からの自分に一言！！





～ 教育研修部 コラム ～

空気と水と温度：その1（空気の話）

呼吸器内科医長・教育研修部長 門脇 徹

秋真っ只中のこの季節。空気も少し冷んやりして蛇口から出てくる水も夏の頃と比べると少し冷たく感じます。日中と夜間の温度差が体に堪える方もおられることと思います。体調も崩しがちなこの季節、みなさまどうぞご自愛ください。

今回は「空気と水と温度」について考えてみました。しばらくの間私の頭の中をグルグルと回っている3つの言葉です。なんとなくこの3つが並ぶと些か小学校の理科の授業の匂いがするかもしれません。そう、「植物が育つ条件」としてテストに出るアレです。しかし今回取り上げるのはあくまでもメタファーとしての空気、水、温度の話です。ということでまずは空気の話。

空気には酸素が含まれています。人間はそれを吸い込み、体内で酸素を消費し、それが二酸化炭素に変化し、吐き出すことで呼吸が成立しています。通常は空気を吸っていれば問題はないのですが、様々な疾患により呼吸状態が悪化すれば酸素を吸入したり、人工呼吸が必要となったりするわけです。さて、空気に含まれている酸素はどれくらいかご存知でしょうか？80%？それとも50%？いえいえ実は21%しかありません。意外にそんなものなのです。空気を吸っても体内で役に立つのは約2割。ここにもパレートの法則（二八の法則）が当てはまってしまうところは非常に興味深いところです。「空気」はありふれたものだけに、例えも多く存在します。例えば

「場の空気」。空気が場を支配することは往々にしてあります。何か新しく画期的なことをやろうと提案したとしても、元々そこにある「空気」に負けてしまい、はじかれる。もしくは、論理的に筋が通らない話なのに、圧倒的な「空気」感で何かが決まってしまう、よくない方向に進んでしまう…。みなさんも一度はご経験があることと思います。そしていざその空気を変えるというのは意気込んでもなかなか難しい。その空気を歴史的に醸成してきたのはまさにその場、でありその場を構成する人間です。作り出しているのは自分たちなのに空気という実態のないものに縛られ、身動きと思考まで停止してしまうようです。空気中の酸素濃度を我々の業界では FiO_2 と表記しますが、その場その場での FiO_2 がおそらく存在し、その濃度を変えようとする状況は多くの場合、様々な化学変化をもたらすため、できるだけ元の FiO_2 に戻るよう自然と働く（働いてしまう）ようです。もちろん、空気を負けてしまえば基本的になにも変わりません。変わらない＝現状維持、と捉える人が多いのですが、現状維持では成長曲線は描けません。空気が支配する場において FiO_2 を変えようとする動きは個人的には大歓迎です。それは場をよりまともにする可能性を秘めた行為だから、です。しかしそこで次なる「水」の問題が出てきます。

（次号へ続く）

異動者紹介



リハビリテーション科 医長
細田 義人

趣味 農林業

鳥取県南部町出身です。陸上自衛隊医官として中四国で勤務しておりました。遅れてきた新人ですが、当院で勤務する機会をいただき感謝しております。

リハビリテーション科・神経内科診療に貢献できればと考えております。宜しく御指導願います。



永年勤続表彰

管理課庶務班長 石原 弘志

6月19日に永年勤続表彰の伝達式が当院大会議室において執り行われました。院長から表彰状と記念品が一人ひとりに授与され、伝達式の後には院長から長年の勤務に対する感謝の意ねぎらいの挨拶がありました。

表彰された方々は、次のとおりです。

● 勤続30年表彰

副看護部長 大東 美恵
ボイラー技師長 竹谷 勝美

● 勤続20年表彰

調剤主任 米津 亜希子
看護師 大澤 美保

永年勤続表彰を受けて



看護部 副看護部長 大東 美恵

私の看護師生活は、広島県呉市の国立呉病院（現呉医療センター）から始まりました。就職当時、このような日を迎えるとは夢にも思っていませんでした。

仕事を続けながら結婚・出産・育児・転勤等慌ただしく駆け抜けてきた感じがしますが、振り返れば多くの出来事や出会いと別れがありました。乗り越えてこられたのも家族をはじめ、多くの方々の支援の賜だと感謝しております。

当院に少しでも貢献できるよう今後とも精進してまいります。このような機会をいただき、ありがとうございました。



管理課 ボイラー技士長 竹谷 勝美

月日が経つのは早いものでボイラー技士として26年、外来診療棟が建ち管理課庶務係として4年勤務させていただきました。

採用当時は先輩方についていくのが精いっぱい、ただがむしゃらに仕事をこなしていたと思います。ボイラー技士は1人で仕事をこなすことが多く、水漏れや蒸気漏れ等に悪戦しながら早出、遅出の日常業務をこなす日々でしたが、仕事も慣れたころに機器の進歩でボイラーもコンピューターの導入で劇的に変わり、自動運転でも安全の確保ができるようになって、勤務者も3人から2人に減ってさみしい思いもしました。

外来診療棟が完成してからは、ボイラー室もなくなりましたが、管理課の庶務係として勤務ができ、30年間、職員として勤務できたことに感謝しています。



薬剤部 調剤主任 米津 亜希子

この松江で延べ7施設目なので、勤続という感覚はあまりなく、大学時代も含めよく引越しをしたなぁという印象です。

それぞれの施設で色々な職種の方に助けてもらいながらの道のりでしたので、これからも同じように自分のペースで進んでいければと思っています。

ありがとうございました。

「肺疾患懇話会特別講演会」を開催しました！

教育研修副部長 古門 千代美

去る7月7日（金）、ホテル一畑において、「第145回肺疾患懇話会特別講演会」を開催致しました。

肺疾患懇話会は、2000年8月から開業医の先生方を対象に年3回行っている勉強会です。

最近では、年2回は特別ゲストをお迎えして院外で講演会を行っており、通算で145回となりました。

さて今回の「肺疾患懇話会特別講演会」は、まず一般演題として「当院のCOPD患者における肺血圧症の評価」を当院内科医長の小林賀奈子先生にご発表いただきました。その後、特別講演として京都大学大学院医学研究科呼吸器内科学院内講師の松本久子先生による『一般臨床における遷延性・慢性咳嗽の診断と治療』と題してご講演いただきました。

当日は、おかげさまで過去にない96名（うち当院スタッフ31名）のご参加をいただき大盛況の会となりました。講演後の質問を希望される先生方も多く、松本先生の豊富な臨床経験に基づくご講演は、ご参加いただいた皆様のニーズにお応えするテーマであったのだと大変うれしく感じた次第です。

お忙しい中、ご参加いただいた開業医・勤務医の先生方、またメディカルスタッフの方々、当日ご協力いただいた当院職員の方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

今後とも、「肺疾患懇話会」をどうぞよろしくお願い致します。



サマーコンサート2017



広報委員 5階病棟 看護師 渡辺 結衣



8月31日に「サマーコンサート2017」を開催しました。

昨年と同様、ヴィオラ奏者の沖田 孝司様、妻でピアノ奏者の千春様にお越しいただきました。

サマーコンサートには入院中の患者さんや家族が100人近く参加され、美しいヴィオラとピアノの生演奏を皆さん笑顔で楽しんでおられました。中には、涙を流しながら聴いておられる方もおられ、とても素敵な空間になりました。

長期の入院患者さんにとっても特別で、有意義な時間になったと思います。

今回、司会という立場でサマーコンサートに参加しましたが、演奏で癒されたと同時に、演奏中の参加者の方々の表情を見て穏やかな気持ちになり、委員としてサマーコンサートを開催できたことをとても嬉しく思いました。また、協力して頂いたスタッフの方々のおかげで安全に楽しい会を開催することができ、本当にありがとうございました。

今後も皆さんが楽しめるようなイベントを企画し、開催していきたいと思っています。



緩和ケア認定看護師になりました♪

5階病棟 副看護師長 緩和ケア認定看護師 清水 里夏子



平成28年6月からの6か月半、島根県立大学で緩和ケアについて専門的に学び、試験に合格し、ようやく平成29年7月に緩和ケア認定看護師となることができました。

緩和ケアとは、「生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることによって、QOL（生活の質・生命の質）を改善するアプローチである」と定義づけられています。教育課程で学ぶ以前の私は、患者さんの「QOLを改善しなければならない私」を主体に考えており、自分にとっても重たい足かせを履かせていたのかもしれませんが。しかし、共に履修した20名の仲間たち、専任教員と討議を繰り返していく中で、考えは180度変わりました。大切なことは、私が何をするか、何をしたいかではなく、患者さんとその方に関わる大切な方々と医療者が一つのチームとなり、「その方にとって何がより良いか」を一緒になって考えていくプロセスが大切であるということです。また、患者さんとの関係を「患者と看護師」としてのみ捉えるのではなく、人と人の繋がりを大切にしていきたいと思います。そして、その方とご家族の人生を知り、価値観を尊重し、診断を受けたその日からより良い「生」であるよう、少しでもお手伝いさせていただけたらと考えています。

この正解のない問題を紐解いていくためには、やはり専門的知識をもち、実践する技術が必要で、そしてそれをより良く活かす感性が必須だと考えています。それを活かして活動していけるのが認定看護師です。しかし、勉強をしたからといって私一人では何もできません。当院のスタッフを巻き込み、皆で対象の方々をサポートしていけるよう、認定看護師として実践する姿を見せ、指導し、いつでも相談を受けられる体制を整えていこうと思っております。

私が研修の間、ご迷惑をおかけした5階病棟のスタッフの皆さんに心から感謝したいと思います。

研修を終えて現場に復帰してからの私は、患者さんを癒すどころか癒され続けています。その方々へお返しができるように、自分自身の人生も豊かに広げていこうと思っております。



緩和医療学会にて発表してきました

理学療法室 作業療法士 佐々木 早苗



6月23日より神奈川県のパシフィコ横浜で開催された「第22回日本緩和医療学会」に今回ポスター発表で参加させて頂きました。

ポスターは、全国の病院・施設などから800もの演題発表があり、多くの分科会で来場者が会場からあふれるほど盛況で、改めて緩和ケアの関心の多さに驚きました。

最近、「がん」に対するリハビリテーションが注目されており、患者さんの様々な苦痛の緩和や、生活の質を向上するために役立つとされています。

今回のポスター発表では、緩和ケアチームとして関わった、がんのリハビリテーションへの取り組みについて発表を行い、当日は緩和ケアチームの木村医長、清水副看護師長も参加し、温かく応援をしていただきました。

学会発表の日、ニュースでは歌舞伎役者の市川海老蔵さんの妻である、小林麻央さんの訃報が流れた日でした。がんの闘病の苦労や病気の恐ろしさ、家族などのかかわり方など深く考えた方も多いと思います。

当院でも、闘病生活を送っていらっしゃる患者さんが多くおられます。

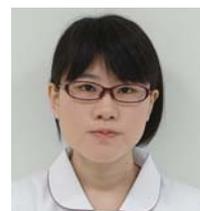
緩和ケアチームでも定期的にカンファレンスを行い、早期から患者さんの苦痛や生活に関心を持ち、多職種で話し合っています。今後も、広い視野で患者さんに関わり、より良いサポートチームになればと願っています。



ポスター発表会場にて

平成29年度「高校生の一日看護体験」を行って

広報委員 1階病棟 看護師 景山 知香



去る8月9日(水)に当院で高校生の一日看護体験が行われ、8名の高校生が参加しました。最初に白衣に着替え、髪も結び、現場で働く看護師と同じ格好になってもらい、オリエンテーションでは心構えについて説明されると、皆真剣な表情で聞いていました。

新人看護師の体験談では、学生さんに現場で働く看護師をより身近に感じてもらえたのではないかと思います。続いて各病棟に分かれて担当看護師と共にケアやバイタルサイン測定、患者さんとのコミュニケーションなどを体験しました。

私の担当した1階病棟では、経管栄養の注入準備等の援助の見学や、介護リフト・こまわりさん(簡易移乗機)での移乗の見学と体験をし、初めは緊張した表情でしたが、患者さんと会話するうちに段々と笑顔が見られました。

その後、管理栄養士から講義を受け、患者さんがどのような食事をされているのか実際に病院食の試食してもらいました。

一日看護体験を通して、学生さんからは「色々学ぶことができて良かった」、「難病について知ることができた」という感想を聞くことができ、私も嬉しく思いました。今回の体験で看護職の理解を深めてもらえたら幸いです。



【平成29年度中学生・高校生の1日 看護体験】

平成29年度 中学生地域医療現場体験事業を行って

広報委員 4階西病棟 看護師 陰山 朋美



8月23日、松江市内の中学生9名を迎え、中学生地域医療現場体験事業を行いました。今回の中学生地域医療現場体験事業には、幼い頃に入院の経験をしたり、親御さんが看護師という学生さんも参加していました。

はじめは、緊張した表情でしたが、実際に患者さんと話をしたり、学生同士で血圧や酸素飽和度の測定を行っていくうちに、表情が和らいでいました。

時間が経つにつれて、「血圧」や「酸素飽和度」は正常なのか、「正常範囲はどのくらいなのか」と学生さんからの質問も積極的にされていました。

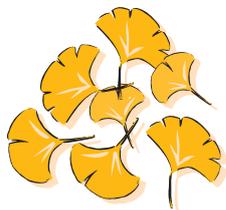
また、患者さんの気持ちを知るために、車椅子での移送も学生さん同士で行ったり、ゆっくりと車いすを押した時と、早く押した時では、どのように違うのか体験してもらいました。早く押した時は、「ジェットコースターに乗ったときのように感じた。」と感想を述べており、患者さんの気持ちを体験できたのではないかと思います。実際に病棟で看護師の仕事を見学し、看護師がどのような仕事をしているのか少しでも感じていただけたのではないかと思います。参加した学生さんたちが将来、看護職を目指すきっかけになれば幸いです。



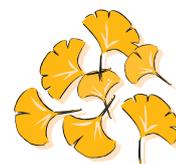
【中学生地域医療現場体験】



開業医紹介コーナー



病病・病診連携 No.20

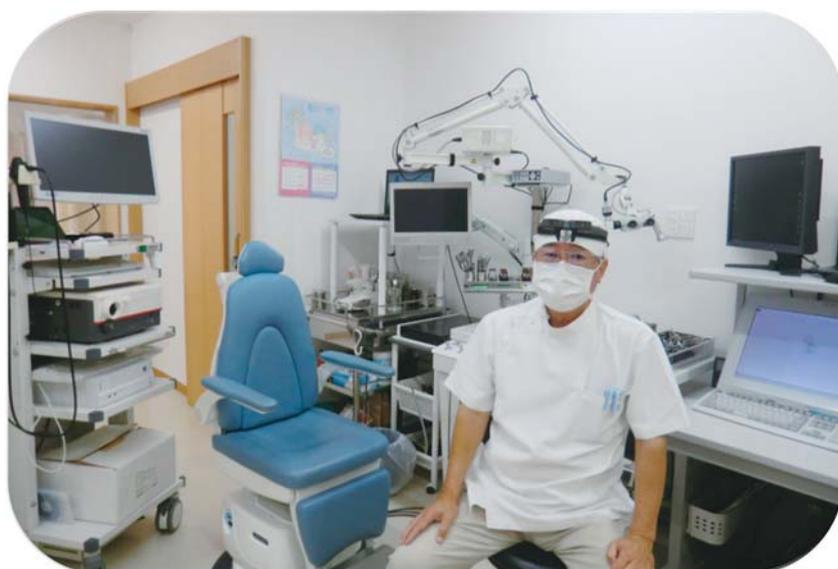


門脇耳鼻咽喉科医院

平成元年に松江市上乃木三丁目で開業していましたが、診察室への急な階段など患者さんへのニーズに合わなくなったため、平成26年から松江市田和山町に新築移転しました。バリアフリーをモットーとし、靴の履き替えもなく診察できるように致しました。また、キッズコーナーを設けたところ大変好評でした。

平成28年9月に電子カルテを導入したのを機に、聴力検査・レントゲン・ファイバースコープの画像をファイリング、一元管理を図りました。インターネットと電話からの予約システムにより、待ち時間を少なくし、待合室での院内感染防止に配慮しています。

上気道疾患と下気道疾患とは密接な関係があります。副鼻腔炎を合併した呼吸器疾患、アレルギー性鼻炎または好酸球性副鼻腔炎と喘息、長引く咳など、日ごろ何かと松江医療センターさんにはお世話になっております。



門脇耳鼻咽喉科医院 院長 門脇 秀夫 先生

◆午前の診療◆

月・火・水・金曜日

8:30～12:30

木曜日

8:30～12:00

(11:45まで受付)

土曜日

8:30～13:00

◆午後の診療◆

午後15:00～18:30

◆休診日◆

木曜日午後

土曜日午後

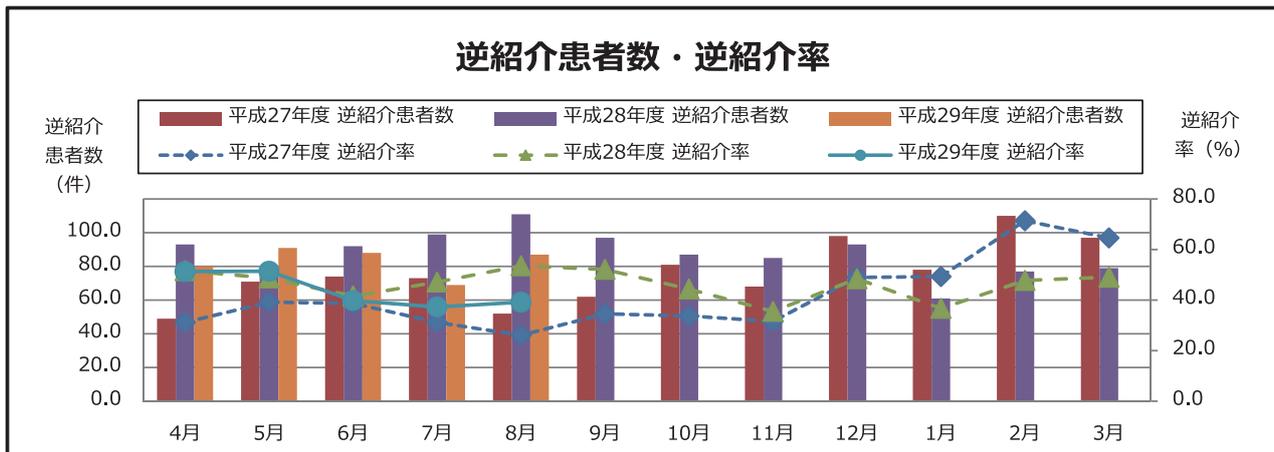
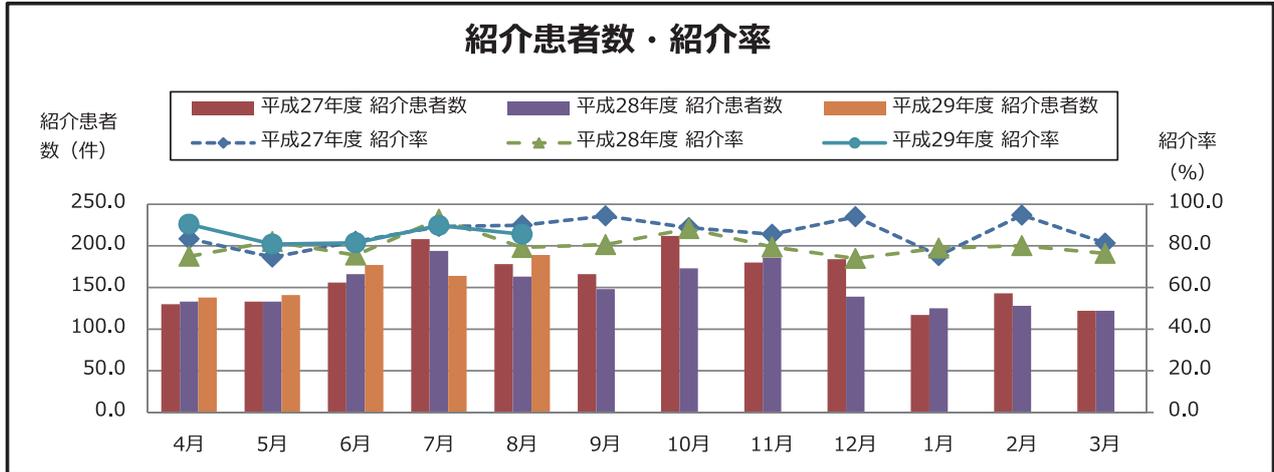
日曜・祝日

地域医療連携室だより 第29号

平成29年10月



1. 紹介患者数・紹介率／逆紹介患者数・逆紹介率の推移



2.退院支援データ 毎週対象病棟で退院支援カンファレンスを実施しています。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
退院支援患者 (人)		175人	167人	197人	167人	204人							
退院先	在宅 (人)	93人	113人	132人	121人	119人							
	施設 (人)	2人	2人	2人	2人	2人							
	病院 (人)	4人	5人	7人	4人	8人							

※逆紹介率とは、当院から開業医さんや他の病院へ紹介させて頂いた患者さんの割合です。

逆紹介率＝逆紹介患者数÷初診患者数(休日、夜間の救急患者数を除く。)

外来診療表

お気軽にご相談下さい

平成29年11月1日現在

診療科	日	月	火	水	木	金	専門領域
呼吸器内科	岩本(初)	多田(初)	木村(初)	門脇(初)	池田(初)		【呼吸器内科】 矢野 修一 池田 敏和 小林賀奈子 木村 雅広 門脇 徹 多田 光宏 岩本 信一 西川恵美子 坪内 佑介 【副院長】呼吸器一般（肺循環・肺がん・結核他） 【統括診療部長】呼吸器一般
	多田	小林	岩本	西川	木村		
	矢野	門脇	池田	坪内	小林		
循環器内科						生馬	呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般 呼吸器一般
神経内科	中島	古和	深田	足立	鳥大医師		【循環器内科】 生馬 勲 循環器一般 【神経内科】 中島 健二 【院長】神経内科 足立 芳樹 【臨床研究部長】神経内科 古和 久典 【診療部長】神経内科 細田 義人 神経内科・リハビリテーション 下山 良二 神経内科 深田 育代 神経内科
		下山		細田			
呼吸器外科	目次		目次				【呼吸器外科】 目次 裕之 呼吸器外科・一般外科
小児科	久保田	齋田	齋田	久保田	齋田		【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
	久保田(予約)	久保田(予約)	久保田(予約)	久保田(予約)	久保田(予約)		
予防接種		(予約)					【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域
腰痛外来			西村(予約)				【呼吸器内科】 担当医(予約)
肺がん検診	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)		
睡眠時無呼吸外来					呼吸器内科		【小児科】 齋田 泰子 久保田智香 重症心身障害・小児神経・摂食機能障害 発達障害・重度心身障害
息切れ外来		呼吸器内科	池田(予約)				
喘息アレルギー外来						池田(予約)	【麻酔科】 西村友紀子 麻酔科領域
咳嗽外来						池田(予約)	
禁煙外来					毎週木曜日 呼吸器内科 担当医(予約)		診療時間 8:30~17:15 受付時間 8:30~11:30 自動再来受付 8:00~11:30
アスベスト外来		多田(予約)	木村(予約)	門脇(予約)			
神経難病外来		下山		足立			 独立行政法人 国立病院機構 松江医療センター 呼吸器病センター 〒690-8556 松江市上乃木5丁目8番31号 電話 (0852) 21-6131(代) 医療連携室直通電話 (0852) 24-7671 医療連携室 F A X (0852) 24-7661
もの忘れ外来			深田				
その他	セカンド オピニオン 外来	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	(予約)	

特 殊 外 来	肺がん検診	診療日：毎週月～金曜日 15：00～17：00（要予約） 内容と特色：ヘリカルCTを使用し、小さな肺がんも発見できます。料金5,400円
	睡眠時無呼吸外来	診療日：毎週木曜日 14：00～16：00（要予約） 内容と特色：いびき、睡眠時無呼吸症候群の診断治療を行います。
	息切れ外来	診療日：毎週火曜日 13：00～15：00（要予約） 内容と特色：息切れの診断と治療を行います。
	喘息アレルギー外来	診療日：毎週金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：成人気管支喘息、花粉症。個人個人に合わせた予防法、日常生活指導から最新の治療まで。
	慢性咳嗽外来	診療日：毎週金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：3週間以上長引く咳（せき）や喉の異常感でお悩みの方。
	禁煙外来	診療日：毎週木曜日 10：00～12：00（要予約） 内容と特色：禁煙を希望される方の検査、診断と相談に応じます。
	アスベスト外来	診療日：毎週火・水・木曜日 8：30～11：00（要予約） 内容と特色：石綿（アスベスト）曝露による肺障害を発見するための検査と診断を行います。
	神経難病外来	診療日：毎週火・木曜日 9：00～12：00 神経難病外来
	もの忘れ外来	診療日：毎週水曜日 9：00～12：00 内容と特色：もの忘れの診断と治療を行います。
	小児科発達専門外来	診療日：毎週月～金曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：ことばや運動の発達の遅れ、低身長などの発育の異常、ひきつけなどの疾患に対する診断・治療療育相談を行っています。投薬、理学療法など通常治療のほかデイケアでの遊戯療法も行っています。
腰痛外来	診療日：毎週水曜日 9：00～12：00（要予約） 内容と特色：主にぎっくり腰などの痛みの治療を行っています。薬物療法や神経ブロックなどで痛みの緩和を目指します。	
セカンドオピニオン外来	診療日：（完全予約制）紹介状が必要です。 内容と特色：呼吸器・呼吸器外科・神経内科・小児科（筋ジス）の専門医（医長）が担当いたします。	